

競 技 注 意 事 項

1 競技規則について

本競技会は、令和7年（公財）日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会申し合わせ事項によって行う。

2 競技練習について

練習は、トラック種目・跳躍種目はサブトラックを使用する。砲丸投は投擲練習場で下記に定める時間に、監督の付き添いの下に行うことができる。

	本競技場の開放	投擲練習場	補助競技場	棒高跳ピット
7/18(金)	13:00～16:00	13:00～16:00	13:00～16:00	13:00～16:00
7/19(土)	7:00～ 8:30	7:00～13:50	7:00～16:00	7:00～ 8:30
7/20(日)	7:00～ 9:00	7:00～10:50	7:00～16:00	

3 招集について

(1) 招集所は、第3ゲート外側に設ける。

(2) 招集完了時刻はその競技開始時刻を基準として、以下の通りとする。

		招集開始時間	招集完了時間
トラック競技	予選・決勝	30分前	15分前
フィールド競技	走高跳・走幅跳・砲丸投	60分前	40分前
	棒高跳	70分前	60分前
四種競技	トラック競技	30分前	15分前
	フィールド競技	60分前	40分前

(3) リレー競走の招集について

リレー競走に出場のチームはあらかじめ招集所からオーダー用紙を受け取り、ラウンド毎に必要な事項を記入して、1組の招集完了時刻の1時間前までに招集所の係員に1部提出する。

(4) 四種競技出場者の招集について

四種競技出場者も、他種目同様に招集所に集合し点呼を受ける。また、3種目終了した時点で最終種目の番組編成を行う。

(5) 点呼は招集所と現地の2ヶ所で行うので、呼ばれたら大きな声で返事をする。

(6) 棄権するときは、「欠場届」に必要な事項を記入し、招集開始時刻前に招集所に提出すること。

4 競技について

(1) 競技の進行を速やかにするために、次のことを厳守すること。

【トラック競技】

- ・ 次のレースに出場する選手は競技時の服装になり、自分のレーンでスターティングブロックを準備すること。
- ・ 混成競技を除き、一度の不正スタートでも責任を有する競技者は失格とする。

【フィールド競技】

- ・ 次の試技順の者は、競技時の服装で試技できる準備をすること。
- ・ 理由なく進行を遅らせた場合には、その試技を無効試技とする。
- ・ 競技者に許される試技時間は以下の通りである。

＊ すべての種目 … 1分

＊ 人数が少なくなったとき

残っている競技者数	単独種目			混成競技	
	走高跳	棒高跳	その他	走高跳	砲丸投
2～3人	1分30秒	2分	1分	1分30秒	1分
1人	3分	5分		2分	
連続試技	2分	3分	2分	2分	2分

(2) 招集所から競技場へ移動する場合は、必ず係員の誘導に従い規律ある行動をとること。選手以外の者は競技場内に立ち入る事が出来ない。(監督、父母、付き添いなど) ゴール後の本部席前の通り抜けは厳禁である。

(3) 800m競走は、第2コーナーの出口までセパレートレーンを使用する。オープンになる位置は、第2コーナーのブレイクラインからである。

(4) 本競技場は全天候舗装なのでトラック保護のため、スパイクピンの長さは9mm以内。走高跳は12mm以内とする。

(5) リレー競走について

- ① 共通リレーと低学年リレーを兼ねることは出来ない。
- ② 低学年リレーのオーダーは、1年2人、2年2人とし、走順に制限はない。
- ③ リレー競技においては同一系のユニフォームを着用する。やむ終えない理由で、ユニホームが揃わない場合には、事前に総務に申し出ること。
- ④ リレーの練習で使用したマークは、責任を持って撤去すること。(練習時)
- ⑤ マーカー使用は1ヶ所とする。(大きさは最大 50mm×400mm の粘着テープ)(競技規則TR24.4)。マーカーは各校で用意し、使用したマーカーはそのチームで撤去すること。
- ⑥ テイクオーバーゾーンは30mとする。

(6) 助力について(競技規則TR6.3.2、TR6.4.5)

ビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CDプレーヤー、トランシーバーや携帯電話、もしくはそれらに類似した機器を競技区域内で所持または使用することを禁ずる。

フィールド種目に出場している競技者が、競技区域の外にいる者によって録画されたそれ以前の試技の映像を見ることができる。録画再生機器を競技区域に持ち込むことが認められ、競技者は録画再生機器を手にしても良い。

(7) 同記録の扱い方

トラック競技において同記録が出た場合、1000分の1秒で判定する。1000分の1秒でも同記録の場合は、抽選とする。

5 アスリートビブスについて

アスリートビブス(番号布)は原型(規格どおり)のまま折り曲げたりせず胸と背にはっきり見えるようにつけること。ただし、走高跳、棒高跳は背または胸だけでもよい。(規格は24cm×16cmで文字の大きさは6~10cmである)

トラック競技に出場する競技者は、写真判定用の腰ナンバーカードを招集所で受け取り、パンツの右側後方に付ける。腰ナンバーカードはゴールした後その場で係員に返却すること。

6 競技用具について

競技に使用する用器具は、全て主催者が用意したものを使用し、個人所有のものは使用できない。ただし、棒高跳用のポールは検査を受け、合格したものに限り使用が認められる。

7 フィールド競技の計測について

下記の記録に到達しないものは計測をしない。

・走幅跳	共通男子	…	5m00	共通女子	…	4m00
・砲丸投	共通男子	…	8m00	2・3年女子	…	8m00
	1年男子	…	6m00	1年女子	…	6m00

8 予選通過記録について

フィールド競技の男女走幅跳、共通男子砲丸投、2・3年女子砲丸投については予選を行う。予選通過記録は次のとおりとする。

	走幅跳		砲丸投
男子	6m60	共通	13m30
女子	5m40	2・3年	12m50

(1) 天候その他の条件によって上記の記録を変更する場合は、審判長が決める。

(2) 予選通過記録を超えた競技者が12名に満たなかった場合、上位記録の12名とする。12番目の選手が同記録で複数いる場合は、セカンド・サード記録で判断し、12名の競技者を決勝に進出させる。

9 走高跳、棒高跳のバーの上げ方について

	走高跳			棒高跳	
		練習	バーの上げ方	練習	バーの上げ方
男子	決勝	1m45	50-55-60-65-70-75-80-85-88-91 …	2m40	50 - 60 - 70 - 80 …
	四種	1m35	40 - 45 - 50 - 55 - 60 - 65 - 68 …		
女子	決勝	1m20	25 - 30 - 35 - 40 - 45 - 48 …		
	四種	1m10	15 - 20 - 25 - 30 - 35 - 38 …		

- (1) 共通種目の決勝においては、最後の1人となり、優勝者が決まるまで上記のバーの上げ方とする。四種競技においては、最後の一人になっても3cmずつあげる。
- (2) 第1位が同記録の場合、順位決定のためのバーの上げ下げは、走高跳は2cm、棒高跳は5cmとする。

10 表彰について

- (1) 決勝8位までに入賞した選手を表彰するので、トラック競技はフィニッシュ地点からそのまま、フィールド競技は競技終了後直ちに、係員の誘導で表彰者控え室に直行すること。(表彰の服装は、ユニフォーム以外とする)
- (2) 男女別学校対抗とし、得点の合計により総合6位までの学校を閉会式で表彰する。得点は1位8点、以下2位7点～8位1点とし、同点の場合は、1位決定の場合に限り上位入賞者の数により決定する。その他については同順位とする。なお、総合優勝の学校には男女それぞれに優勝旗を授与する。

11 その他

- (1) 競技運営上必要な情報、指示、伝達はアナウンスするので聞き逃しのないよう注意すること。また、各種目の成績及び総合順位は正面入り口付近に掲示する。競技者はあらかじめ出場する種目の招集時間、組、レーン、試技順等や、競技注意事項等を熟知するよう努めること。
- (2) 本大会において別紙に示した全中標準記録を突破したものは、令和7年8月17日(日)～20日(水)に沖縄県沖縄市「沖縄県総合運動公園陸上競技場」で開催される、第52回全日本中学校陸上競技選手権大会に出場する事ができる。申し込みは県中体連で一括して行うので、所定の用紙に必要事項を記入し、速やかに手続を行うこと。
- (3) 共通リレーについては、全日本通信陸上競技大会岩手県大会の優勝チームと、本大会の優勝したチームのうち、決勝記録の良いチームが、第52回全日本中学校陸上競技選手権大会の出場権を得る。

※県中総体の閉会式終了後、全中出場選手の監督を対象に打ち合わせを行います。

※会場周辺(競技場外)の場所取りについては、前日9時からとする。